

令和 6 年 度 事 業 実 績 報 告 書

1 自然科学情報資料の収集及び調査研究に関する事業並びに科学技術に対する正しい理解と認識の定着を図るための事業

(1) サイエンスステージ（6月まではエントランス特設ステージで実施）

学校利用時のショーは、児童生徒の発達段階に応じて実験内容を変更して実施した。未就学児は、「風」をテーマにし、目に見えない風を使って他の物を動かすことで視覚的に楽しめる内容にした。小学生では、「はじけるマジック」をテーマとして、発泡入浴剤、アルコール、リモンエンなど力ではじけさせたり、密度の違いで振ることにより上下が入れ替わる実験をしたりして、驚きがあり、知的好奇心を喚起するようにした。中学校以上では「錯視の科学」をテーマにし、目や耳の錯覚を楽しみながら体験していただいた。

一般利用時のショーはニュートンの科学（落下運動）や燃える秘密（燃焼）などをテーマに設定し、子どもから大人まで新たな発見や驚きのある楽しいショーを提供した。7月からはサイエンスステージが復活して暗転の演出が可能となり、「光」の実験など照明の効果も利用しながら工夫して運営した。

① 学校利用サイエンスショー

未就学児	「風のふしぎ」「ふしぎな『水』」
小学生	「はじける科学」「燃えるひみつ」
中学生以上	「錯視の科学」「燃焼」「液体窒素」

② 一般利用サイエンスショー

4月～7月初旬	「ニュートンの科学」
7月中旬～8月	「燃えるひみつ」
9月～11月	「液体窒素びっくり実験」
12月～3月	「ふしぎな光」

③ 特別サイエンスショー

5月	タカタ先生	「お笑い算数教室」
7月	北野貴久氏（兵庫県彩星工科高校教諭）	村田直之氏（関水社）
		「大阪おかんの教育日誌」
11月	高柿勝博氏（日立シビックセンター科学館 サクリエ）	
		「しゃぼん玉大実験！」

④ 高校生サイエンスショー

8月3日～18日 岩瀬農業高校、須賀川桐陽高校
清陵情報高校、安積黎明高校

(2) 科学実験教室

参加者一人ひとりが自分自身の手で科学実験を行うことにより、科学の不思議な現象を身近に感じ、科学の楽しさを味わうことができるよう努めた。

① 学校利用時提供メニュー

ア：各学年の発達段階や学習指導要領に応じた内容、発展的な内容を実施した。

（燃やしてみよう 他54メニュー）

- ◇ 「放射線を調べよう」は無料講座を希望する学校があることから、霧箱の実験のあり・なしを選択できるようにした。
- ◇ 「寒剤でアイスクリーム」など、実験の成果物の試食がある場合には、参加者のアレルギーの有無について担任の先生と事前にしっかりと確認しながら講座を展開してきた。
- ◇ 「ビーカーポップコーン」や「空気であそぼう」など、未就学児や小学校低学年児童も科学の楽しさ、不思議さが体感できるような講座を実施した。

② 一般利用時提供メニュー

ア：予約制プログラム

- ◇ 「キッチンサイエンス」などの身近な調味料を使った実験や、20年ぶりに新しくなった紙幣の偽造防止技術を顕微鏡やブラックライトを使って調べる「お金の科学」など、大人も楽しく体験できる講座を実施した。
- ◇ 「エビ・イカの解剖」や「スマホ分解講座」など外部講師を招聘してニュープログラムを実施し、新たな客層を取り込むことができた。
- ◇ 実験関係の講座は、1講座のグループ数を弾力的に展開し、最大10グループまで増やして実施した。

イ：自由参加プログラム

- ◇ 「お月さまの変身の秘密」（月の満ち欠けを調べるモデル実験）や「光でかくれんぼ」（文字を書いた紙を封筒に入れ、封筒の外側から透視する実験）など、身近にある材料から生活のいろいろなところに隠れている科学への入口を体験する講座を実施した。
- ◇ 月面探査ロボット「SORA-Q」フラッグシップモデルをリモート操作してゴールを目指す新規プログラムも人気があった。
- ◇ 予約をせずに来館したお客様でも気軽に立ち寄って楽しめる内容を実施した。

(3) 工作教室

ものづくりを行う体験の場を提供することにより、楽しんだり驚いたりして実感を伴いながら科学への興味や関心の向上が図られるよう努めた。

① 学校利用時提供メニュー

ア：各学年の発達段階や学習指導要領と照らし合わせた内容を実施した。

（月の満ち欠け早見盤 他47メニュー）

- ◇ 今年度は、「おえかきプラバン」の新設や、各工作の内容の改善を図り、より楽しく体験できるよう講座を展開した。
- ◇ 低学年では「おえかきプラバン」「ゴムで動かそう」、中学年では「虹色万華鏡」「葉脈標本しおり」、高学年では「牛乳パックから紙すき」「虹色万華鏡」が人気講座だった。

② 一般利用時提供メニュー

ア：予約制プログラム

- ◇ ものづくりの基本となる「切る・貼る・つなげる・結ぶ」等の技法を用いる工作を多数展開した。客層の低年齢化に伴い、ねんど系の工作を増やすなど工夫した。人気のある講座（スライム、アイシングクッキー、七宝焼き講座、ぴかっとうちわ等）は複数回設定し、より多くの利用者が体験できるようにした。運営面では、科学的な仕組みに気づいたり驚きや感動が生まれやすくなるよう、ホワイトボードや手元カメラの映像などを活用しながら説明の仕方を工夫するよう心掛けてきた。
- ◇ 新規講座を定期的（1回／1チラシ）に開設した。特に低年齢化している利用者に対応できるよう、簡単な作業で仕上がる工作を多く取り入れた。
 - ・新規講座「ふしぎなキューブ」「ハンディサイクロンクリーナー」等

イ：自由参加プログラム

- ◇ 新規に「とんとんずもう」「てるてるぼうず」「紙テープでアート」などをスタートさせ身近な材料を用いたもので、幼児から大人まで誰でも短時間で簡単に作って持ち帰ることのできる工作を実施した。
- ◇ 簡単（短時間）に工作ができるよう、あらかじめ用紙に印刷したり、不要な部分をカットしたりするなどの下準備を行い、たくさんのお客様に体験していただけるよう工夫して講座を展開した。

(4) 自然体験

ムシテックワールド周辺の里山や施設に隣接したビオトープなどを活用した自然観察・体験活動とエコハウス内での自然素材を使用した工作を通して、自然環境に親しみ、理解を深められるよう努めた。

① 学校利用時提供メニュー

ビオトープに生息するメダカやヤゴ、コオイムシなどの水生昆虫を採集する「水の中の生き物さがし」、森の中で体を動かしたり、自然について学んだりする「フィールドたんけん」、「里山であそぼう」などを多くの学校が利用した。また、野原でトンボやチョウ、バッタなどを一人一本の捕虫網で捕まえる「虫さがし」は、幼稚園・保育所・小学校低学年に人気があった。「一人一人に道具があって、のびのびと活動ができた」「水の中の生き物さがしをさせたくてどうしても来なかったです」等の感想が寄せられた。

(フィールドたんけん 他 24メニュー)

② 一般利用時提供メニュー

- ◇ 「野原で虫さがし」「バッタ調査隊・とんぼ調査隊」などの虫探しや「水の中の生き物探し」などのプログラムで虫取りデビューする子からリピーターまでと、さまざまな方々が参加した。プログラムと関連したムシテック周辺の生き物展示も好評であった。
- ◇ 「植物のクローンをつくろう」「食虫植物」などは、外部講師の豊富な知識と経験に基づく指導により、参加者にとって満足度の高いプログラムとなった。
- ◇ 専門的な知識を持つ「福島県もりの案内人の会」のガイドによる「ネイチャー探検隊」や「福島虫の会」のガイドによる「ムシの学校」「むしむしナイトツアー」「冬鳥講座」などでは、たくさんのご家族が参加し、自然の不思議さや豊かさを十分に味わうことができた。
- ◇ 「世界のカブトムシ・クワガタムシ展」では、カブトムシ・クワガタムシ生体の他、「元木スペシャルコーナー」を設置し、震災後から本館に「福島の子どもたちのために」と寄贈をし続けてくださっている方のオオクワガタやニジイロクワガタ等を展示した。「ふれあい写真撮影コーナー」には近くでカブトムシ・クワガタムシを見たりさわったりできるということでたくさんの方に来館していただくきっかけとなっていた。
- ◇ カブトムシ・クワガタムシの幼虫飼育講座をできるだけ多く実施し、今年度も「ニジイロクワガタブリード講座」を開催し、申込みをInstagram限定にしたことにより、予約時の混乱もなく、たくさんのお客様に参加していただくことができた。

(5) 須賀川フライトアカデミー（休止）

これまで多くのお客様に飛行機操縦体験を楽しんでいただいたが、機器の老朽化とメンテナンス終了により、7月から運行休止とした。

(6) なぜだろうランド（展示室）

- ◇ セイヨウミツバチの生態展示を7月から行った。夏休み中はたくさんの方に見ていただき女王バチさがしなども楽しんでいただいた。天敵であるスズメバチの駆除を行ったことにより12月までお客様に見ていただくことができた。
- ◇ 同じく7月からカイコの生体展示を行った。スタッフがエサやりのタイミングを調整し、たくさんのマユを作るところまで多くの子どもたちが注目し、カイコという生き物を紹介することができた。
- ◇ 各展示物の内容を楽しみながら理解することができる小冊子型「ムシはかせクイズ」、発達段階に応じた学校利用向けのみ実施して、子供たちに楽しんでいただいた。

(7) 企画展・特別事業・特別講座

さまざまな事業などを企画し、科学技術の広範囲な普及を図ってきた。

①企画展

名 称	内 容	期間・期日
世界のカブトムシ・クワガタムシ展	世界各国に生息する人気のあるカブトムシやクワガタムシの成虫（約50種類）の展示。	令和6年7月13日（土） ～令和6年8月25日（日）
ムシテック写真コンテスト	県内の昆虫の写真を募集し、審査、発表することで、お客様の参加できる写真コンテストを開催。	募集期間 令和6年8月1日（木） ～令和6年10月30日（水） 審 査 令和6年11月15日（金） 表彰式 令和6年12月7日（土）
きも？かわ？ 生きもの展	形や色、模様など見た目のインパクトがあるムシや両生類・爬虫類などを展示。	令和7年3月1日（土） ～令和7年4月6日（日）

②特別事業

名 称	内 容	期間・期日
スマイルキッズ	須賀川青年会議所との共催で開催。 約7,100名のお客様が来場し、「カブトムシ幼虫つかみどり」や「ガラス管マドラーづくり」などのプログラムを楽しんでいただいた。	令和6年5月26日（日）
教員のための 博物館の日 （助成事業）	貸出教材への理解を広めるとともに、学習指導要領のポイントである「主体的・対話的で深い学び」実施に向け、授業に役立つ体験や実験などを行い、科学の楽しさを体感する機会となった。 今年度の参加者は41名	令和6年7月22日（月）
高校生 サイエンスショー	県中地区の高校科学部等によるサイエンスショー。学生の発表機会を設定することにより、パフォーマンス力を高めていただくとともに、お客様にも科学への関心を高めながら楽しんでいただける企画となった	①令和6年8月3日（土） ②令和6年8月4日（日） ③令和6年8月17日（土） ④令和6年8月18日（日）
サイエンスフェスタ 2024 （助成事業）	地域の企業・団体等の協力による科学体験イベントで、今年度は参加団体も増え来館者も増加した（県民の日関連イベント）。 今年度の来館者はのべ1,500名。	令和6年8月18日（日）
ムシテック祭り	ムシテックワールド開館23周年記念イベント。今年度の来館者はのべ2,000名。	令和6年11月9日（土） ～11月10日（日）
s p f f サイエンス 屋台村 at ムシテック ワールド	s p f f（ふくしまサイエンスプラットフォーム）に所属の10団体が屋台形式で出展し、科学イベントを開催した。	令和6年11月23日（土）

③特別講座

名 称	内 容	期間・期日
特別サイエンスショー①	「タカタ先生のお笑い算数教室」 高田和典氏	令和6年5月4日(土) ～5日(日)
特別サイエンスショー②	「大阪おかんの教育日誌」 彩星工科高等学校 北野貴久氏 関水社 村田直之氏	令和6年7月21日(日)
特別サイエンスショー③	「しゃぼん玉大実験！」 日立シビックセンター科学館 サクリエ 高柿勝博氏	令和6年11月10日(日)
大人のための平日講座	○ひょうたんランプ ○とんぼ玉 ○ブッダナッツアレンジ ベルカップアレンジ	令和7年2月18日(火) ～19日(水) 令和7年3月 4日(火) ～ 5日(水) 令和7年3月12日(水) ～13日(木)

2 生物、文化、環境、科学等に関わる教育普及に関する事業

次の2つの活動を進めることにより、生物、文化、環境、科学等に関わる教育の普及を図った。

① 学校等と連携した活動

小・中学校理科の学習指導要領を軸に、総合的・発展的な学習のための支援活動を学校等と連携しながら実施。

出 前 講 座	期日	内 容
① 須賀川第三小学校	6/8	○工作：ころころキャンドル
② 須賀川第三小学校	8/27	○自然体験：水質調査
③ 白河大信小学校	10/5	○サイエンスショー：空気 ○工作：ペットボトルジャイロ
④ 今泉服飾専門学校	11/13	○七宝焼き
⑤ 白河第二小学校	12/18	○サイエンスショー：空気

名 称	期日	内 容
教材の貸し出し事業	通年	勿来第三小学校、逢瀬公民館、青少年健全育成推進二瀬地区協議会、下郷町公民館、古殿小学校、cocoyuka須釜小学校等「貸し出し教材セット」利用があった。
岩瀬地区小学校児童理科作品展（共催）	9/7～ 9/16	岩瀬地区小学校教育研究会理科部会と共催で岩瀬地区小学校理科作品展を開催した。優秀な作品には「理事長賞」を贈呈し、優秀作品の発表会を行った。
安積高等学校SSH探究活動	6/26	安積高校SSHの探究活動に科学館として専門的指導を行った。土壌微生物観察を体験していただいた。

② 地元企業や関係機関等との連携事業

イベント名（会場等）	期 日	内 容
○須賀川牡丹園（須賀川牡丹園）	4/29	○レインボーウォーター・ペーパーパズル
○サイエンスフェスティバル （スペースパーク）	5/5	○移動昆虫館
○鏡石幼稚園	7/6	○サイエンスショー（空気）
○青少年健全育成小山田地区協議会 （小山田地域公民館）	7/23	○サイエンスショー（空気） ・ころころキャンドル
○記念館祭り（吉田富三記念館）	8/3	○サイエンスショー（液体窒素）
○農業総合センターまつり （農業総合センター）	9/7	○移動昆虫館・ペーパーパズル
○郡山自然の家オープンデー （郡山自然の家）	9/15	○移動昆虫館・ペーパーパズル
○こどもの祭典（t e t t e）	10/13	○移動昆虫館・ペーパーパズル
○地域学校協働南会津研修会 （南会津御蔵入公民館）	10/22	○工作：ペットボトル・牛乳パック工作
○公民館主催事業 （平田中央公民館）	10/26	○実験：レインボーウォーター ○ペーパーパズル
○スタディキャンパス （福島県環境創造センター）	11/3	○移動昆虫館・ペーパーパズル
○サイエンスショーinかわまた （川俣町鶴沢公民館）	11/30	○サイエンスショー
○植物おもしろ会議 （いわき市フラワーセンター）	11/30 ~12/1	○移動昆虫館
○福島ルンビニー幼稚園	1/17	○サイエンスショー：空気
○少年仲間づくり教室 （国見町観月台文化センター）	2/8	○サイエンスショー：液体窒素 ○工作：ミニミニ空気砲
○青少年育成町民会議 塙探検隊 （塙町体育館）	2/15	○サイエンスショー：水 ○工作：ヘリコプター
○ファイヤーボンズイベント （円谷幸吉メモリアルアリーナ）	3/1～ 3/2	○サイエンスショー・ペーパーパズル
○サイエンスフェスティバル （日立シビックセンター科学館）	3/16	○移動昆虫館・ペーパーパズル

3 ふくしま森の科学体験センターの利活用に関する事業

◇ 広報宣伝活動

県や地域メディア等と連携し、地域に密着した情報発信を幅広い層を対象に行なった。

① 広報媒体等によるプログラム案内・活動内容紹介

名 称	内 容	時期
市広報	市広報「すかがわ」へプログラム等の情報等を提供した。	毎月
県内メディア	市内・県内向け新聞（マメタイムス、あぶくま時報、福島民報福島民友）へイベント等の紹介記事の掲載を依頼する。 各放送局にもチラシを送付することで、取材の機会を多く作った。 ・7/13 福島放送「人生の楽園」 ・11/5 福島中央テレビ「ゴジテレchu！」生中継 ・12/27 ラジオ福島「レディオン」 ・2/28 テレビユー福島「ステップ」 ・3/8 NHK「はまなかあいづサタデー イベント情報」 ・4月から月1回程度、ウルトラFM「すかがわシティインフォメーション」にて特別イベントの紹介 ・福島県生涯学習サイトふくしまマナビiへ情報提供	随時
県内教育機関	市内の全小・中学校に「学校利用の手引き」を配付するとともに、中通り地区の小学校へ「プログラムチラシ」を配付した。 市内すべての幼稚園・保育所には、リーフレットと「幼稚園・保育所利用の手引き」を配付し、より一層の周知を図る。 ※ 夏季休業期間中のプログラムチラシについては県内すべての小学校に配布し、県内各地への周知を図った。	定期
県内外公共施設等	各種公共施設などに「プログラムチラシ」を配付し、配架を依頼するなど情報の周知に努めた。	定期 随時
旅行誌 ・昆虫誌等	旅行誌・タウン誌等へ施設の利用案内等の情報を提供した。 「地球の歩き方（日本の虫旅）」「CJMonmo8月号」掲載	随時

② ホームページ等によるプログラム案内・活動内容紹介

名 称	内 容	時期
ムシテックワールド ホームページ	ムシテックワールドの利用案内およびプログラム内容やイベント予定等を計画的に更新し、活動内容等を紹介した。	通年
ムシテックワールド ブログ	ムシテックワールドのプログラムの実施状況を計画的に更新し、活動内容等を紹介した。	通年
ムシテックユーチューブ チャンネル	ムシテック周辺で見られる野生昆虫の様子や、家でできる簡単工作・実験やおもしろチャレンジ実験を紹介した。	通年
ムシテックワールド インスタグラム	ムシテックワールドのプログラムの様子や四季の風景などを写真を中心に紹介するとともに、人気の予約制講座を受付したことにより、フォロワー数を増やすことができた。	通年

4 その他目的を達成するために必要な事業

①プログラムや運営方法の改善とボランティアの資質向上

名 称	内 容
プログラム開発推進委員会	利用が急増している幼稚園の職員と一般市民、報道機関の方々を委員に加えた委員会を組織して、「科学教育の普及」の核となるプログラムの改善・充実と普及を図る。
ボランティア奨励	プログラムの実務体験等を通して科学に対する知識・理解や実験・工作の技能を高め、ボランティアの資質向上を図るとともに、講師として講座を実施する。

②研修協力事業

名 称	期 日	内 容
職業体験の受け入れ	9/13 11/12 ～14	○須賀川市立第二中学校 職場体験 ○県立岩瀬農業高校 インターンシップ
各種研修の受け入れ	7/31 ～ 8/1	○市内の採用2年目となる教員などが接客などのサービスを体験する職場実習を受け入れた。（フォローアップ研修 須賀川市内小中学校教諭（12名）